

アグリパワー

植物治癒活性化資材

《 実験・報告・お客様の声 》

高濃度 ⇒ 病害虫・改善 低濃度 ⇒ 生育・品質・土壌改良



【植物乾留エキス】 生育活性効果
【トロポロン】 病害菌・抑制効果
【キトサン】 病害虫・改善効果
【クエン酸】 葉面・土壌改良効果



マウスによる
急性経口毒性試験済み

株式会社成田
〒573-0036大阪府枚方市伊加賀北町3番6号
TEL 072-841-5284 FAX 072-841-5285
URL.<http://www.kk-narita.co.jp>

<アグリパワー(植物治癒活性化資材)の概要>

特 徴

松、檜、熊笹など、35種類の植物水性・油性エキス(^{ナリ} **フィトン35[®]**)とクエン酸・キトサンを組み合わせた人畜無害の100%天然原料からできた植物治癒活性化資材です。高純度のクエン酸でキトサンを液状化させ、より成分が植物に吸着するよう、キトサンに有機成分とトロポロンを抱え込ませています。

※ ^{ナリ} **フィトン35[®]**とは35種類の天然植物抽出、水性エキスを油性エキスを巧みに組み込み、特許を取得した技術です。

原 料

杉、檜、ヒバ、モミ、トウヒ、黒松、赤松、エゾ松、楠、白樺、柿、茶、ミカン、イラクサ、熊笹、シソ、サンショウ、アマ茶ヅル、南天、ビワ、イチジク、栗、ホウノキ、カシワ、イチヨウなど35種類・クエン酸(純度99%以上)、キトサン(純度92%以上)、トロポロン

効 果

^{ナリ} **フィトン35[®]**…生育活性効果

トロポロン………病害菌・抑制効果

キトサン………病害虫・改善効果

クエン酸………葉面・土壌改良効果

植物体内の酵素を活性化させ、粘りを良くし、生育を促進させます。

品質、収穫量共に対病害虫抑制力がアップします。

土壌微生物の善玉菌(放線菌等)が増殖し、連鎖障害を軽減します。

<アグリパワー(植物治癒活性化資材)の概要>

成 分

アミノ酸、タンニン酸、クエン酸、ミルティン酸、バトテン酸、酵素、コリン、フラボノイド、ポリフェノール、テルペノイド、ブドウ糖、スチルペン誘導体、セルラーゼ、アミラーゼ、ペクチナーゼ、ツコプヒン、クパリン、ドブプリン、 α -ビネン、 d - α テルビネン、ボルネオール、 $\gamma\gamma$ -カジネン、 α -カジノール、カンフェン、セキスベニヘン、セキスベニヒオール、イソボルネオール、エンデススモール、 α -ジヒドロミルテノール、 d -ミルテノール、シェノール類、脂肪酸エステル類、 d -リモネン、葉緑素、トロポロン、各種テルペン

農薬・ 化学肥料 対策

アグリパワーを適度な濃度で土壌散布や葉面散布をすることにより、病害・害虫を抑制、農薬・化学肥料を使用しすぎ、エンガイを起こした土壌を改良(苗付け前・収穫後にアグリパワーを散布)・品質改良でき、農薬や化学肥料の使用を減らすことができます。

<「琵琶湖カントリー倶楽部」掘り取り調査>

2001年10月15日撮影

取締役：コース管理部長 ●●氏

①サブグリーン全景

(前方がアグリパワー散布エリア・後方が見散布エリア)



②掘り取り機器



③左2ブロックが「アグリパワー」散布(中央と左サイドで採取)
左2ブロックが未散布(中央と左サイドで採取)



④左2ブロック「アグリパワー」散布は平均的に根が見られる(5~10cm)右ブロック未散布は根が見られない(数本)



<トマトハウス栽培 全ハウスに殺菌剤を使用>

- ・ A～Cの写真はアグリパワー使用区(用面散布を3回)
- ・ アグリパワー使用区は樹勢が良く、病気(灰色かび病)がほとんど出ない
- ・ トマトの玉太りが良い



- ・ D～Fの写真は有機液体肥料の使用区(葉面散布を3回)
- ・ D～FはA～Cのアグリパワー使用区に比べて病気が多発しており、葉色も悪く、樹も小ぶりで生育が悪い
- ・ A～CとD～Fを比べ、収穫までさらに差が出来る予想



<ねぎ農家実験導入報告書>

1992年3月3日撮影

ねぎ農家：島根県東伯郡大栄町 ●●様

導入内容：全区画 農薬不使用

A 区画はアグリパワーを3 回使用

B 区画はアグリパワーを2 回使用し、1 回液肥を使用

お客様の声：A 区画・B 区画共、全く差は無いが、A 区画の育成促進が良いように思える。
受粉も行われ実を付けている。



<いちご農家実験導入報告書>

1992年3月3日撮影

いちご農家：島根県簸川郡斐川町 ●●様

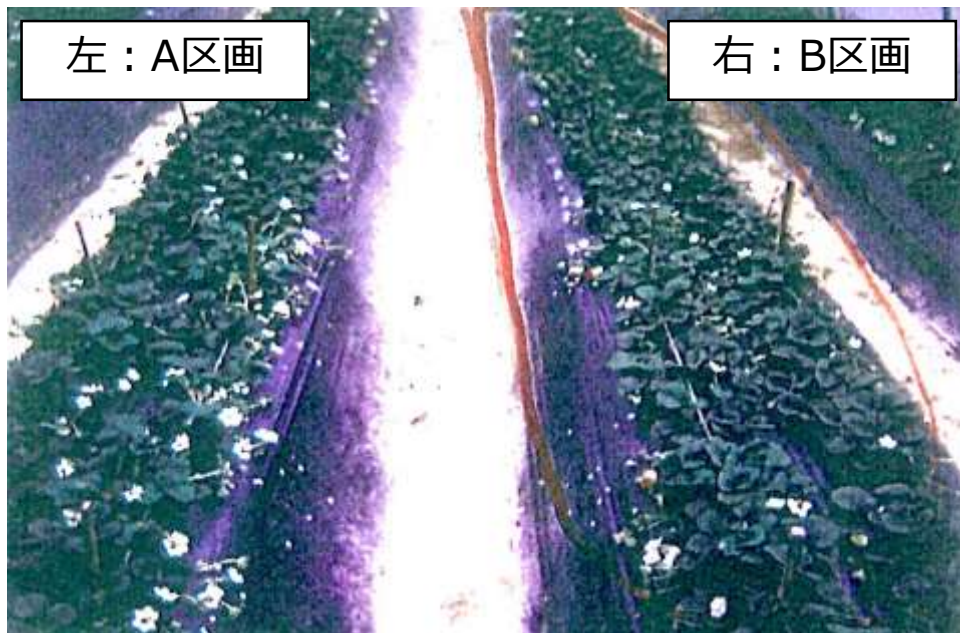
導入内容：全区画 苗の時に防腐剤使用・定植後は1回ウドンコ病用薬剤使用

以降は A区画にアグリパワーを4回使用

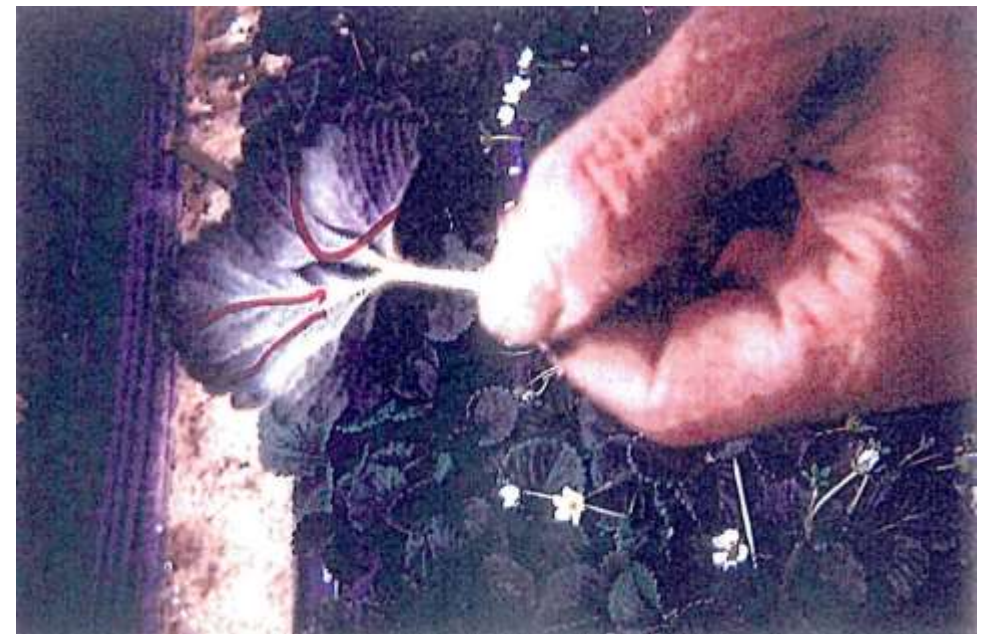
B区画にウドンコ病用農薬を4回使用

お客様の声：A区画B区画共、全く差が無く順調に生育している。

受粉も行われ実を付けている。



赤線内がA区画で実が生っている。B区画は未だ実が生っていない。



アグリパワーを散布し、ウドンコ病(白点)が茶色に変色し治った。

<白菜 野路栽培の結果報告>

白菜を2鉢に別けて定植した。

A鉢とB鉢は45cm離して栽培を開始した。

A鉢はアグリパワーを水に500倍希釈で撒布(2回)を行う。

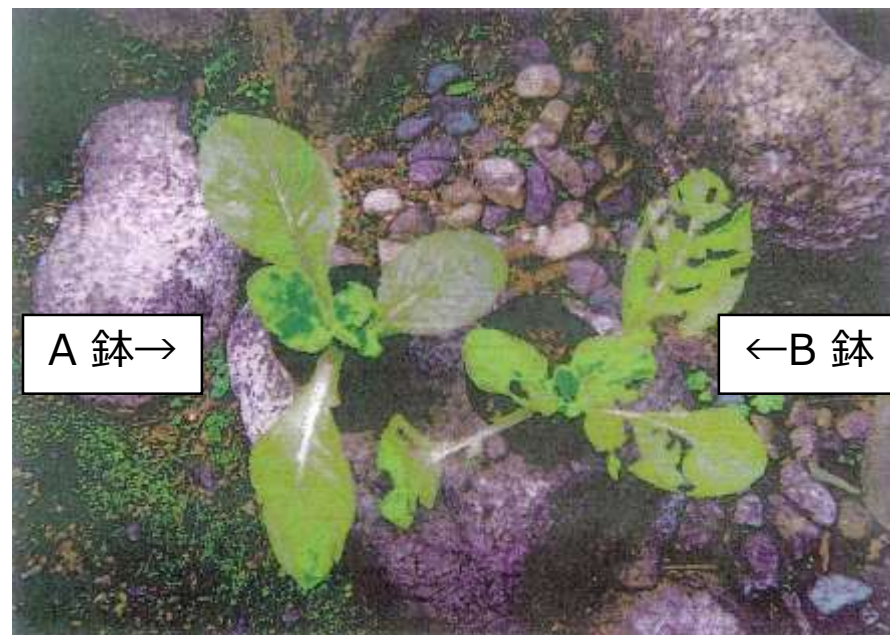
B鉢は水のみを撒布。

その結果、2週間後にB鉢は、害虫被害(葉)を受けた事が写真で判る。

しかし、A鉢は全く被害を受けていないと同時に、生育がB鉢より、良いと思われる。

45cmと隣接しており、被害を受けるのであれば、A鉢にも被害を及ぼすと考えられる。

アグリパワーは害虫を寄せ付けない効果がある事が立証された。



<プランター栽培 小芋・安納芋>

2016年8月2日撮影

プランターで育てた小芋と手前は安納芋。

2016年2月に種芋を植え3～6月に500倍希釈にした1 Lのアグリパワーを4回与えた。



プランターで育てている小芋の横に100倍希釈のアグリパワーを1週間置いていたところ、カミキリムシのメスが入っていた。他、ゴキブリが入り込んだりなど、アグリパワーは害虫に効果がある。



<バナナ実験>

2016年6月15日～20日撮影

野菜、果物の保存料として使用できるか、痛みやすいバナナを試験材料として行う。

近年バナナの病気が流行しており、またバナナの実がすぐに茶色くなる為、アグリパワーを使用したところ、変色せず綺麗に斑点が出来るようになった為、アグリパワーに漬ける時間と希釈違いで実験を行った。



2016年6月15日 バナナを購入し、実験を開始。

希釈…100・300・500・1000 倍 漬ける時間…30分・1時間

※液に漬けるときの、バナナの果指の先から漬け、漬けた後、風通しの良いところで保管。



<バナナ実験>

2016年6月15日～20日撮影

2016年6月20日5人立会いのもと、全てのバナナを切り、色と味を比べた。

自然保管のバナナは切ると実が茶色く変色しており、食べるとべとつき、味が感じられなく、アグリパワーに漬けたバナナは切ると、変色も無く、どの実もうす黄色く綺麗な色をしていた。



液に漬けたバナナの皮の色は、黄色、茶色の斑点が多く現れており、味はアグリパワーに漬ける時間が30分から1時間、アグリパワーの濃度が薄くなるに従い、味が濃厚に感じられた。

(1000倍希釈の1時間の味が1番、濃厚に感じた。)

全員同意見。



<プランター栽培 トマト・キュウリ・スイカ> 2011年7月23日撮影

アグリパワーを使用し、プランターでトマトとキュウリとスイカを栽培した。
初めて育てたが、どの作物も実が大きく、旨みが詰まっており、とても美味しかった。



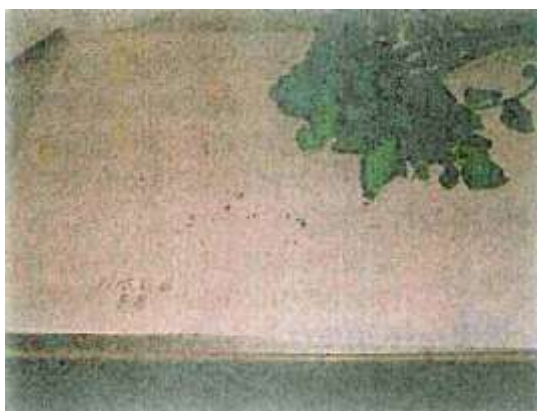
<お客様の声>



お客様：大栄町の農家

作物：メロン(アブラムシが発生)

私はメロン農家ですが、毎年アブラムシに悩まされています。アグリパワーを500 倍液にて散布したところ、驚くことに、今回、全然広がらず助かりました。



お客様：松江市の農家(ハウスにて水耕栽培)

作物：クレソン(アブラムシが大発生)

出荷のピークが近づき、見るとアブラムシが大発生。出荷1 週間は農薬を使用してはいけなかったので困っていたが、アグリパワーの500 倍液を散布した。翌朝、虫が動かないので不思議に思い見てみたら死んでいた。



お客様：大栄町の農家

作物：スイカ

山が近い為、毎年虫に悩まされていますが、アグリパワーの500倍液を散布したら、今年はなぜか虫が出なくて良かった。

<お客様の声>



お客様：鳥海町の農家

アグリパワーを使用すると、特に夏の暑さが葉の育成を良くし粒も大きく糖度も乗ってきます。冬と夏の寒暖差でリンゴの実がしまり、アグリパワーでよりコクが際立ち、酸味の中に、スキッとした甘みを感じます。農薬使用を最小限にとどめ、アグリパワーを使用しています。



お客様：若美町の農家

アグリパワーを使用し、数年にわたってメロンと小玉スイカ作りを進めて来ました。アグリパワーで栽培した若美メロンと小玉スイカは食べた時のエグミ感が無く、さらに安心で、安全な美味しいメロン、スイカになります。

＜無農薬野菜の実態についての記事＞